

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570101339		
法人名	医療法人社団 仁和会		
事業所名	むつみ苑グループホーム平和ヶ丘		
所在地	宮崎県宮崎市池内町前吾田1096番地		
自己評価作成日	令和元年7月1日	評価結果市町村受理日	令和元年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和元年8月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは利用者様それぞれのペースを大切にしながら、常に笑顔で過ごせる事を目指しています。時には意見が食い違い衝突する事もありますが、持って生まれた性格と長年持ち合わせた生き方はそう簡単には変えられません。これからも怒ったり笑ったりしながら、いつの日か家族以上の絆の中で余生を生きられる事を願って。その為にご本人の残存機能を引き出しながら「私も誰かの役に立てている」と思っていたら支援しています。そこで働く職員が楽しく働くことで、利用者様がより楽しく生活できるように！をモットーに毎日頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは近くに大型団地や総合病院、学校、保育園、等がある環境に立地している。隣接して同じ法人のグループホーム、近くに介護老人保健施設があり、連携して運営されている。運営上の基本となる理念に「365日笑顔」を掲げ職員全員が理念を共有し、その理念を踏まえて、笑顔を絶やさないケアの実践に取り組んでいる。また、利用者職員は同じテーブルを囲み、同じ食事を会話をしながら食事が楽しみなものになるよう支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「365日笑顔」という理念を掲げ、職員全員が共有し実践できるように、職員室と玄関に掲示し、お互い確認しながら実践出来るように努力している。	職員会議やミーティングで、理念を確認、共有し、その理念を踏まえて、笑顔を絶やさないケアの実践につなげる取組を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのレストランに外食に出かけたり、コンビニエンスストアに買い物に行ったり散歩に出かけたりしている。また、地域ボランティアの方が月1回来所され交流を図っている。	散歩や買物時に近隣住民と挨拶や会話をして交流に努めている。ただ、自治会との交流や地域住民の受け入れ、保育園や学校との交流、地域行事への参加等が若干少ない。	近くの保育園や学校、自治会、地元消防団等と交流を積極的に進め、地域とのつながりをさらに深めることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られた方には、ホームでの過ごし方や支援について説明させていただいている。ボランティアの方には、利用者様と実際に接していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催している運営推進会議では利用者様の近況や活動の報告を行っている。参加者の皆様から意見や苦情が話しやすい様な雰囲気作りに努めている。出された意見はミーティング等で共有しその後のケアに役立っている。	会議では、ホームから運営状況や災害避難訓練の結果等についての報告が行われている。出席者からは熱中症対策や災害時の地域協力体制等についての意見や提案があり、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を取り合う事はないが、市町村主体の研修等に参加し情報共有を図っている。また、運営推進会議時に地域包括支援センターの担当者に支援のアドバイスや指導をいただいている。	市の担当者とは直接指導や助言を受けることはないが、地域包括支援センターを通じて連携している。市が主催する研修会や会議には参加して協力関係を築けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回身体拘束に関する勉強会と年に3回適正化委員会を開催し、理解を深めながら拘束のないケアに取り組んでいる。敷地内入り口は常時オープンで、玄関施錠は夜勤者一人勤務の時のみである。	年2回身体拘束に関する勉強会を行っている。職員は勉強会や研修で身体拘束の弊害を学び理解を深めている。職員全員で身体拘束をしないケアに取り組み、日中は玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修で学んだ事をミーティング時に復命研修にて報告し全職員が情報を共有し虐待防止の徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員個々で学ぶ機会はあるが、実際活用している場面はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず説明の時間を取っていただき、十分な説明を行っている。しかしその場では納得・理解されても、後で質問される事も多々ある為そういう時にはいつでも対応できる体制を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し日頃より話しやすい雰囲気づくりを心掛け、ご家族の面会時には要望を聞くようにしている。聞き取った情報は申し送りノートを活用し職員間で共有できている。	運営推進会議に家族の代表が参加して、意見や要望を表せる機会を設けている。また、家族の来訪時に利用者を含めて話し合いの場を設け、意見や要望を引き出す工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々職員からの意見や提案を聴くように心がけている。そうした意見をミーティングの際に職員全員で話し合い、定例会で提案したり、代表者へ管理者から伝える等して、より良いグループホーム運営と働きやすい職場作りを目指している。	職員会議やミーティングで、職員の要望や意見を表せる機会を設けている。会議では業務の見直しによる残業の減少等、活発な意見交換があり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者の命令による時間外労働に関しては手当を支給しているが、人手不足や介護の重度化により、日々の業務の中でも残業を行う事も多い為、業務の見直しをミーティング時に行い、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や施設内外の研修には積極的な支援体制ができている。それぞれの実績や経歴を考慮し偏りのない研修参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接する同法人のグループホームと日常的に交流を図り、意見交換を行っている。また、地域包括支援センター主催やグループホーム連絡協議会の研修に参加し、他のグループホームの管理者等との交流を図る事でサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族と会話する機会を多く持つ事でたくさんの情報を聞く事ができ、早い段階で不安な気持ちや要望を聞き取る事で意向に沿ったケアができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の情報収集の段階で話を十分に聞き、思いに共感する事で話しやすい雰囲気をつくるよう心掛けている。本人と家族の話が違う場面も多いが、仲介的な立場を取る事で信頼関係ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態をよく観察しご家族と話し合った上で、ご本人の身体状況にあったサービスを取り入れサポートしている。入所されてすぐはケアプランを短期間(1か月)で作成し、実際に生活している様子から支援の方法を再検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はコミュニケーションをとる中から、本人に残されている力を見極め、できる事を一緒に行ったりお願いし、お互いに支えあえる関係を築いている。長年の知恵等職員側が教わり実践する事でホームの質を高めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会を依頼したり、日用品等の購入を依頼する等して家族がホームを訪れる機会をつくり、関係が途切れないよう努めている。面会時にはご本人の近況をお伝えし、一緒に支えあえる関係を築けるよう話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物を居室に置いたり、馴染みの人との電話をつないだり、ご家族の協力を得ながら馴染みの場所への訪問等を行っている。面会時にはゆっくり過ごせるよう配慮している。	家族の協力を得て、馴染みの場所への訪問や買物等に出かけている。また、ホームに家族や知人友人がいつでも気軽に訪問してもらえるよう雰囲気づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の交流が図れるよう配席に考慮しているが、どうしても相性が合わず揉め事もある。そんな時は少し時間を置き職員が1:1で各々と会話を持つ事で落ち着きが見られる。利用者様が孤立する事のないよう、職員が仲介支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居をされる場合は、関係者に対して本人の状況や習慣、好み、これまでのケアの工夫等細かに伝えるようにしている。新しい施設へ面会に行く事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より何でも話せる関係作りに努めている。何でもない日常会話の中から知り得た情報は、職員で共有し、時には家族に伝える事で本人の思いが達成できる事もある。	日々の会話や暮らしの中から、利用者の思いや意向の把握に努めている。また、センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント)の一部を活用して情報収集をし参考にするよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の家族に記入いただくシートを利用する事で、昔の生活歴を把握している。在宅中に利用されていたサービス機関からの情報も貴重なアセスメント資料になっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録を残す事で、その場になかった職員にもわかりやすく、残存機能の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心に全職員の意見を出し合い検討し、ご本人・ご家族の意向をくみとりながら、自立支援に向けた介護計画を作成するよう努めている。	職員の意見や気づき、本人や家族の意向、希望を取り入れた介護計画を作成している。モニタリングは定期的に行い、介護計画は状況に応じて適切に見直しを行うよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	短期目標を意識しながら個別記録を記入するよう心掛け、気づきを必ず申し送りノートに記入し、職員間で共有しその後の実践や目標の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向や要望に合わせ新しいニーズに柔軟に対応できるように、研修等で得た介護技術や発想を取り入れ支援できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所へ散歩に出かける事で、季節の移り変わりに触れ気分転換を図れるように努めている。また散歩途中のコンビニエンスストアや食事のできる場所を見つけては、買い物や外食に行きたいという意欲を引き出している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は主治医の指示通りに行っている。日頃より体調の把握に努め、受診時には情報提供書を作成し適切な医療が受けられるよう支援している。	本人や家族が希望する医療機関での受診を基本としている。受診時には情報提供書を作成し適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の急変時には母体の老健施設内看護師に相談し指示を受けている。訪問看護を利用されている方が3名おられ、毎週1回の訪問を受けその都度状況を伝え、看護師からの指導を受けられる事もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には連携室を通して情報の提供を行っている。定期的に面会も行い病棟看護師に状態を確認し連携を図っている。退院時には看護サマリーにより情報をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に現時点では看取りは行わない方針である事も説明し理解を得ている。入院の長期化や病状の悪化等の状況の変化時には病院やご家族とその都度話し合いを持ち、できる限りご本人・ご家族の意向に沿うよう支援を行っている。	入居時に看取りは行わない方針であることを説明し同意を得ている。重度化した場合には、家族とその都度話し合いを持ち、本人や家族の意向に沿った支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルと救急車要請時マニュアルは電話の近くに貼り、とっさの時にあわてないようにしている。年に1度消防署による講習会で心肺蘇生やAED使用を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施し、民生委員や区長、近くの母体である老人保健施設の職員にも参加してもらっている。火災や地震の訓練は実施できているが、土砂災害における訓練をまだ行っていない為取り組む必要がある。	災害避難訓練は年2回実施している。避難訓練には自治会長や民生委員、近隣住民にも声をかけ、地域との協力体制が構築されるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄等の誘導に関しては小声での声かけとし、入浴介助時は着脱や洗身の声かけはその人に合わせた(自自由度や身体状況)声かけを行うようにしている。	利用者の人格を尊重した言葉使いや名前の呼び方に配慮している。特にトイレへの誘導や入浴時には利用者に恥ずかしい思いをさせないように対応するよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な会話の中で聞き取った情報から、ご本人の意向を汲み取り思いに添えるように支援している。思いをうまく言葉で表現できない方に対しては、ご家族の情報やクローズドクエスチョンで引き出したり、表情やしぐさ等で把握できるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各々の希望を聞きながらご本人のペースを乱さないように支援している。時間に制限のあるレクリエーション等を計画しているときは、前もって事情説明をして皆さんの理解を得ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを考慮しながら毎日の整容を支援している。特に外出時にはその場に応じた服装ができるよう職員も一緒に楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	母体の老人保健施設の厨房で調理されメニューも決まっているが、盛り付け方を職員それぞれが工夫し、食事を楽しめるように努めている。ご利用者様に盛りつけや台拭き等の手伝いもお願いしている。職員も同じテーブルで食べながら個々の状態に合わせた声かけを行っている。	献立は決まっているが、職員が盛り付け方を工夫して食事を楽しめるよう努めている。職員と利用者は同じテーブルを囲み、会話をしながら同じ食事を取り、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量は毎回把握し記録している。栄養バランスについては委託業者の管理栄養士による管理、摂取量に関してはカロリー不足と思われる方に関しては補助食品を摂取していただいている。水分不足の方にはゼリーを作ったり、好む飲み物を提供し水分量を確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけを行い、訪問歯科によるアドバイス等により、声かけ・見守りを行い、磨き残しのある方は磨き直しをしている。週1回は洗面用具の消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄ができるように時間誘導を行っている。特に失敗の多い方に対しては排泄チェック表でこまめに確認し誘導時間を工夫して失敗を減らせるように努めている。	排せつチェック表を活用し、利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し、出来るだけトイレで排せつできるよう自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品の提供を行ったり、水分摂取の促しや毎日の体操・歩行練習・散歩等による運動で便秘解消を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は日曜日以外は毎日実施している。基本的には一日おきの入浴となっているが、その日の体調やご本人の希望には臨機応変に対応している。	入浴は基本的には2日に1回となっているが、本人の希望に合わせて柔軟に対応している。入浴を拒む人には、日時を変更したり、タイミングよく声掛けする等工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望があればいつでも居室で休んでいただき、エアコンやアンカ等で快適に過ごせるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の服薬セットは薬情を確認しながら、副作用等も視野に入れ行っている。服薬の管理は職員が行い、服薬時は必ず二人で確認し誤薬事故のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	母体の老人保健施設で行われる「生け花・習字教室」へ参加される方や、裏庭を開放し好きな花を植えて楽しみに育てている方もいる。掃除や洗濯物干し・たたみをお願いしたり、裁縫が得意な方には縫物をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じて散歩に出かけたり、希望があれば近くのコンビニエンスストアへ一緒に買い物に出かけたりしている。また、ご本人の思いに添って家族の協力で外出する事もある。	天気の良い日には、近隣を散歩したり、近くのコンビニエンスストアに買い物に出かけたりしている。また、家族の協力を得て全員で外出に出かけるなど、外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方はご家族に了承を得て少額のみ所持していただいている。管理できない方は職員が預かり簿にて管理し、希望に応じて買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族が遠方の利用者様に対しては、便箋や季節のはがきを提供し声かけを行っているが、最近は書かれていない。年賀状は書いて投函している。携帯電話を持っている方が1名おられ、自らご家族等へ電話をかけられている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の草花や、利用者様が生花教室で生けた花を飾ったり、食堂の壁に季節を感じる事ができる壁画や飾りつけを行っている。いつも気持ちよく過ごせるように清潔保持に努めている。	利用者が日々快適な生活が出来るよう、室温や換気、衛生管理に努めている。ホールにはソファや椅子、テーブルが置かれ、ゆったりと居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホールとテレビのある和室があり、ソファでテレビを見る人、居室で横になっている人、仲の良い方と談笑される人等、それぞれ思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具やご家族の写真等を持ち込んでいただき、自宅にいる時のような安心感が持てるような居室づくりを行っている。	家族と相談しながら、利用者の希望や個性を生かした部屋づくりを支援している。使い慣れた家具や写真、テレビ等が持ち込まれ、安心して居心地よく生活できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室等はよくわかるように大きく表示し、わかりやすい工夫をしている。居室の家具や収納は、できる事は自分でしていただけるよう、居室担当者が配置等に配慮している。		